

久御山町中央公園等の公共施設整備活用のあり方検討
【概要版】

久御山 まちのにお 構想

Vegetable Garden Town KUMIYAMA

京都大学大学院 景観設計学分野

2019年 2 月



久御山中央公園

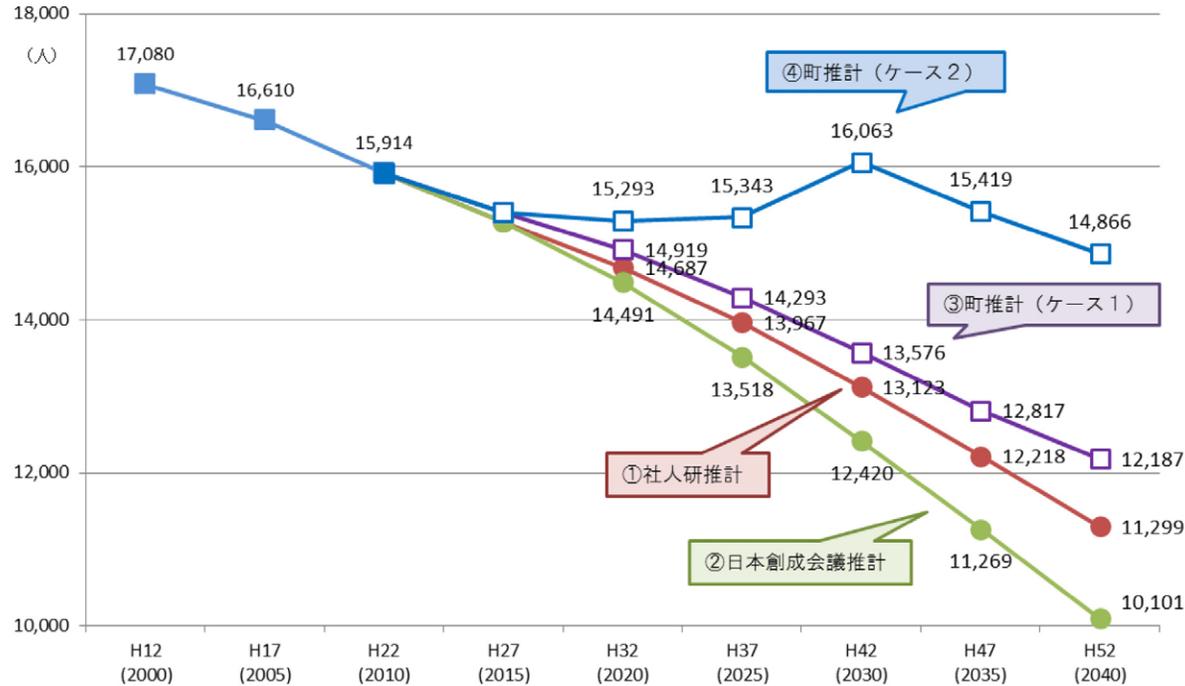


クロスピア久御山



久御山町の課題

久御山町の将来人口推計



+ 街区整備
土地活用
(ハード)

+ 出生率
向上
転出縮小
現行まま
2040年に
2/3に

① 国立社会保障・人口問題研究所推計

自然動態: 現行の状況が続く
社会動態: 移動が半分になる(転出超過が縮小)

② 日本創成会議推計

自然動態: 現行の状況が続く
社会動態: 現行の移動が継続(転出超過)

③ 町推計(ケース1)

自然動態: 出生率が向上(平成 52 年 2.07)
社会動態: 移動が半分になる(転出超過が縮小)

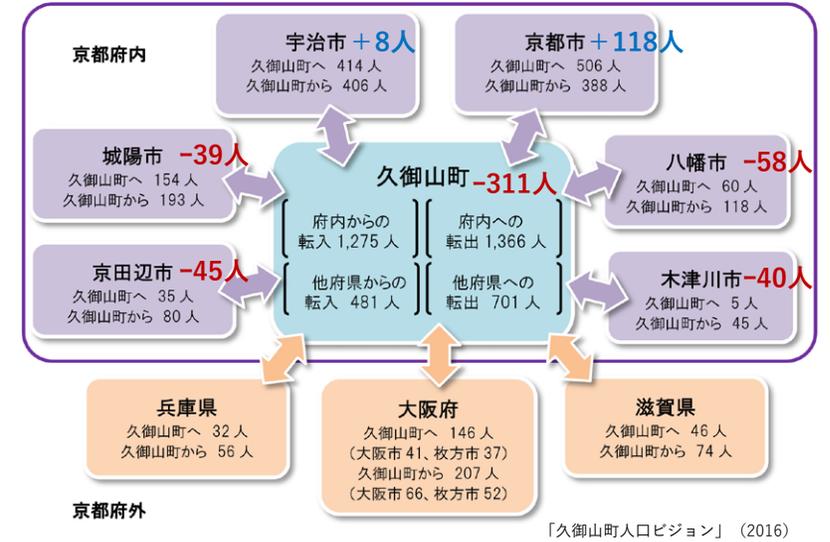
④ 町推計(ケース2)

自然動態: 出生率が向上(ケース1と同)
社会動態: 市街化区域内の空閑地などの有効活用(2015~2025 年)、
総合計画「住街区促進ゾーン」の整備促進(2025~2030 年約 1,400 人)

※) 2015 年合計特殊出生率は久御山町平成 20~24 年の数値

「久御山町人口ビジョン」(2016)

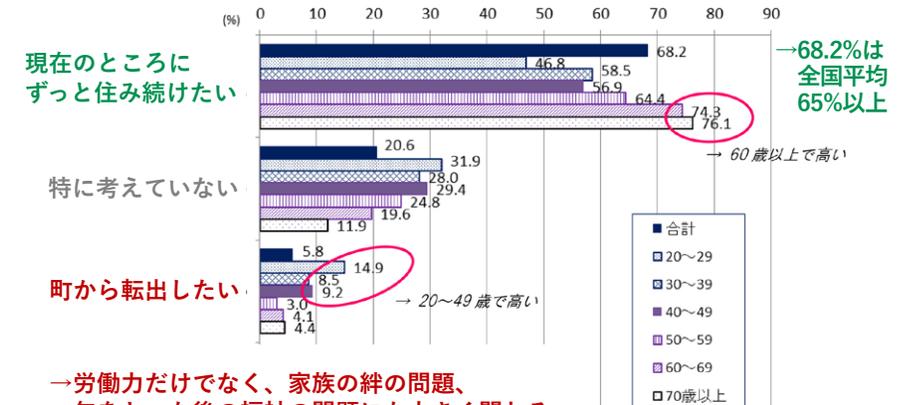
久御山町の転入出 (平成17-22年の5年間)



「久御山町人口ビジョン」(2016)

久御山町の定住意向 (年齢別)

○ 20~29 歳、30~39 歳、40~49 歳では、「町から転出したい」、「町内の他の地区にかわりたい」及び「特に考えていない」が他年齢階層より高くなっています。
○ 60~69 歳、70 歳以上では、「現在のところずっと住みたい」が 7 割以上を占めており、他年齢階層より高くなっています。



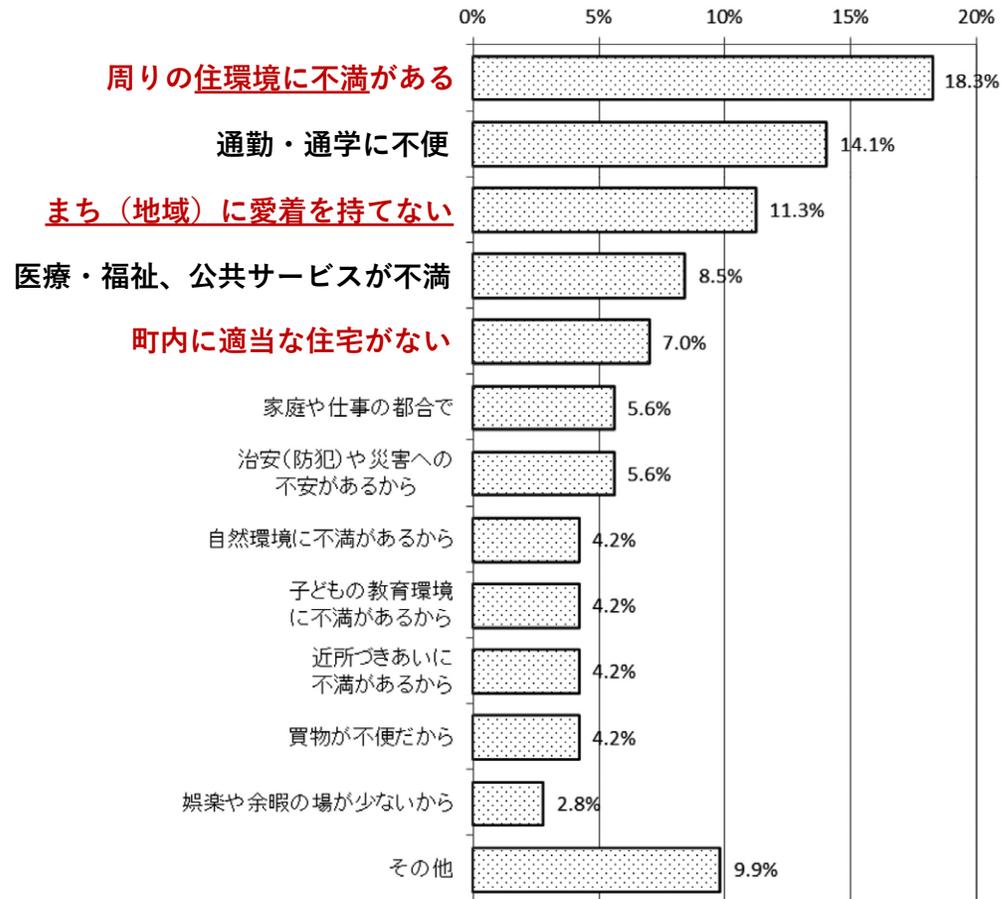
→ 労働力だけでなく、家族の絆の問題、
年をとった後の福祉の問題にも大きく関わる

「久御山町まちづくりアンケート調査」(総合計画策定時)(2014)

久御山町の課題

久御山町から転出したい理由

○ 定住意向で「町内の他の地区にかわりたい」「町から転出したい」と回答した人に、住み替えたい理由を聞いたところ、「周りの住環境に不満があるから」が18.3%で最も高く、次いで「通勤・通学に不便だから」が14.1%を占めています。



「久御山町まちづくりアンケート調査」（総合計画策定時）（2014）

課題は

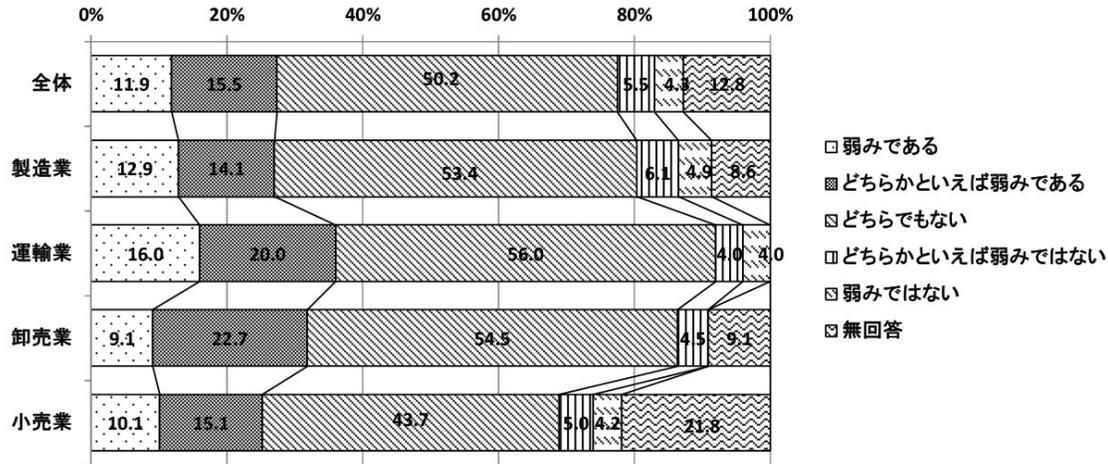
「住環境への不満」

「まちに愛着を持ってない」

をいかに解消するか

久御山町の課題

久御山町の弱み（魅力的な地域イメージがない）

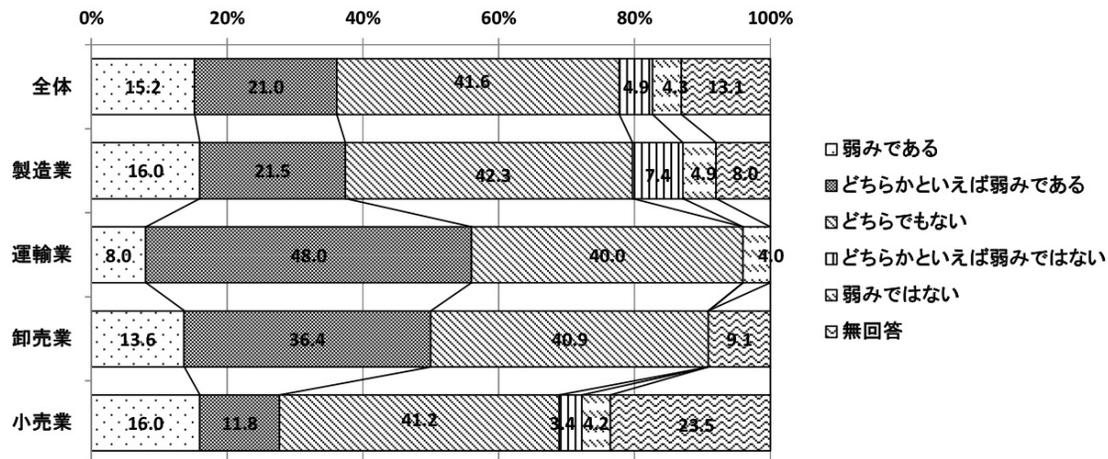


課題は

若手農家が京野菜を中心に規模拡大しているが、農業の販売力やブランドの発信力が弱い。

工業地域では、有効求人倍率が7倍を超える状態にあり、人材不足が深刻化している。町の“魅力的な地域イメージがない”ことが弱みとなっている。

久御山町の弱み（人材の確保が困難）



有効求人倍率	
	求人倍率
全国	1.58
京都府	1.56
宇治管内（宇治市・ 城陽市・久御山町・ 宇治田原町）	1.93
久御山町	7.30

久御山町の課題

久御山町総合戦略（H28）の目標である、

町内定住の促進

快適な環境の創出
学びと憩いの定住環境づくり

くみやまの魅力の創造・発信

産業活力の発揮

戦略的なものづくり
町内企業の育成
農業振興

の

戦略の具体化

が必要

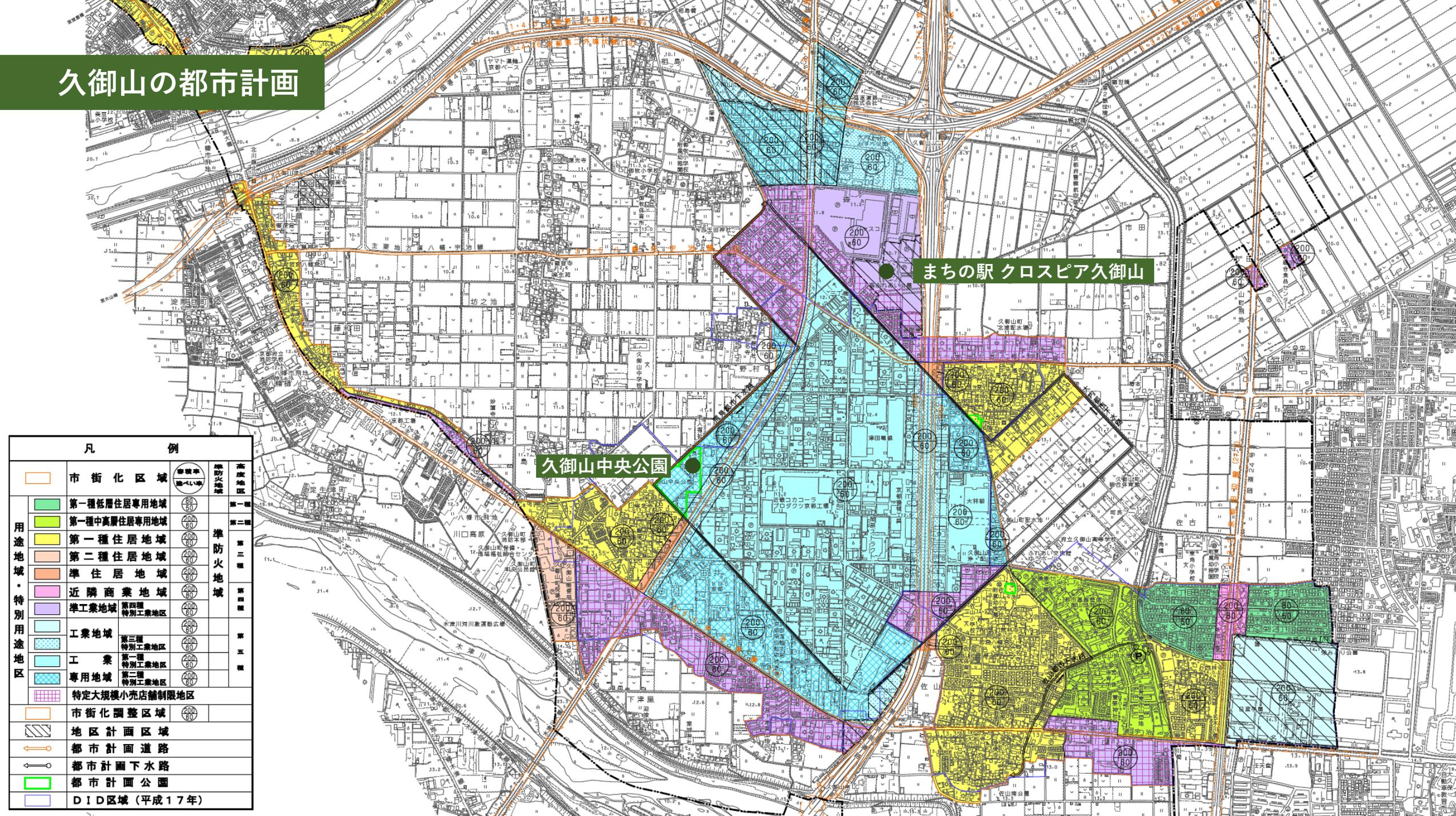


巨椋池干拓地など整備された
優良農地約600haで展開する
『農業』

京都飛行場跡の工業専用地域
に立地する約1600もの
『ものづくり産業』



久御山の都市計画



久御山中央公園

まちな駅クロスピア久御山

凡 例		建築準 則(ハ)	準防 火地 域	高 度 地 域
市街化区域				
第一種低層住居専用地域		60	第一種	
第一種中高層住居専用地域		60	第二種	
第一種住居地域		60	第三種	
第二種住居地域		60	第四種	
準住居地域		60	第五種	
近隣商業地域		60		
準工業地域		60		
工業地域		60		
工業 専用地域		60		
特定大規模小売店舗制限地区		60		
市街化調整区域		60		
地区計画区域				
都市計画道路				
都市計画下水路				
都市計画公園				
DID区域(平成17年)				

久御山中央公園

1) 施設概要

諸元 : 全面積 25,136.5 m²、昭和53年3月供用開始

主要施設 : 野球場 約12,100m²、屋根付きゲートボール場、グラウンドゴルフ場、テニスコート、児童広場、幼児広場、庭園、時計台、噴水（設備故障中）
駐車場 : 31台分+37台分（借地）

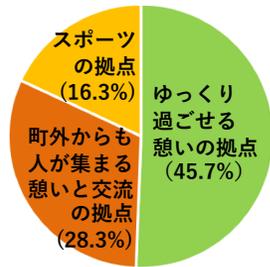
2) 現況施設の利用上の課題と要検討項目

- 野球場とテニスコートはよく利用されており、運動公園としての機能を十分に果たしている。一方、中央公園北側の噴水の周囲の広場・庭園部分はあまり利用されていない。特に、噴水や流路の設備は故障しており機能しておらず、維持管理の方法も含めて、公園における位置づけの再検討が求められる。
- 「公園に関するアンケート」から、町民が公園に求めるものは、ゆっくり過ごせる場所、人が集まる憩いの交流拠点であることが分かる。また、ゆっくり散歩できる場所や、幼児・児童が遊べる場所、喫茶・食事が楽しめる場所への町民のニーズも大きい。これに対し、現況の中央公園は、スポーツ以外の交流拠点としての機能が不十分であり、また、ゆっくりと休めるような町民の憩いの場としての役割も果たせていない。憩いの場や、交流・にぎわいの場としての町民のニーズに応える施設整備のあり方について検討する必要がある。
- 中央公園北側については、4つの区画に区分されており、利用しづらい状況となっている。具体的には、利用されない区画があること、相互のアクセス性が悪いこと、生け垣等により見通しが悪く死角も多いこと、などが問題として挙げられる。公園の有効活用のためには、抜本的な改善が必要である。

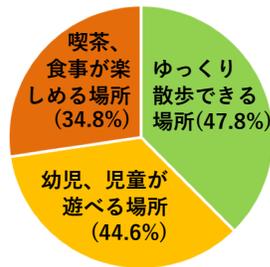
久御山町 公園に関するアンケート

(H30年度11月 町政モニター約100人に実施)

Q: 今後、中央公園をどのようなコンセプトの公園にしていきたいと思いませんか?



Q: 中央公園のどのような施設を充実させていけばいいと思いますか(複数回答可)



その他 自由記述

- ・季節の植物が楽しめるミニガーデン、植物園
- ・野外コンサート
- ・みどりの多いところを作してほしい
- ・冬期にイルミネーション
- ・喫茶、食事の施設
- ・気軽に体を鍛えられる施設
- ・車で行ける
- ・花をたくさん咲かせる
- ・雨が降ってきた時に入れる自然素材でできた施設

久御山中央公園

中央公園 有料施設の年間使用人数

	使用団体数	使用人数	稼働率	使用人数 (日あたり)
野球場	812団体	35,659人	49.6%	98人
庭球場	2875団体	17,169人	64.0%	47人
合計	3,687団体	52,828人	-	145人

(H29年度久御山町文化スポーツ事業団年間報告書)

※雨天等のキャンセルは稼働率にのみ反映されている
※使用時間帯については集計資料なし

中央公園 維持管理費（平成29年度）

費目	金額 (千円)	
光熱水費	2,715	電気代約230万
修繕料	76	
維持管理委託料	6,599	清掃、剪定など
電気保守	194	
駐車場借地料	3,468	
指定管理料	2,730	
合計	15,785	

国道1号線交通量について

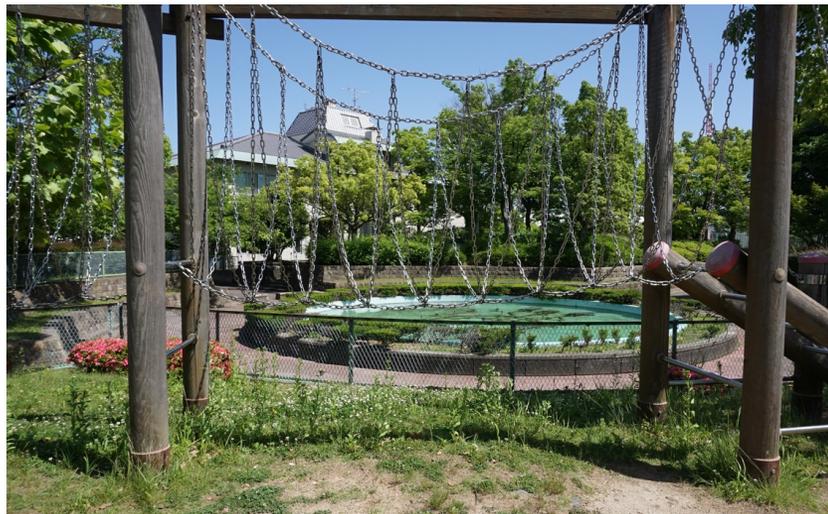
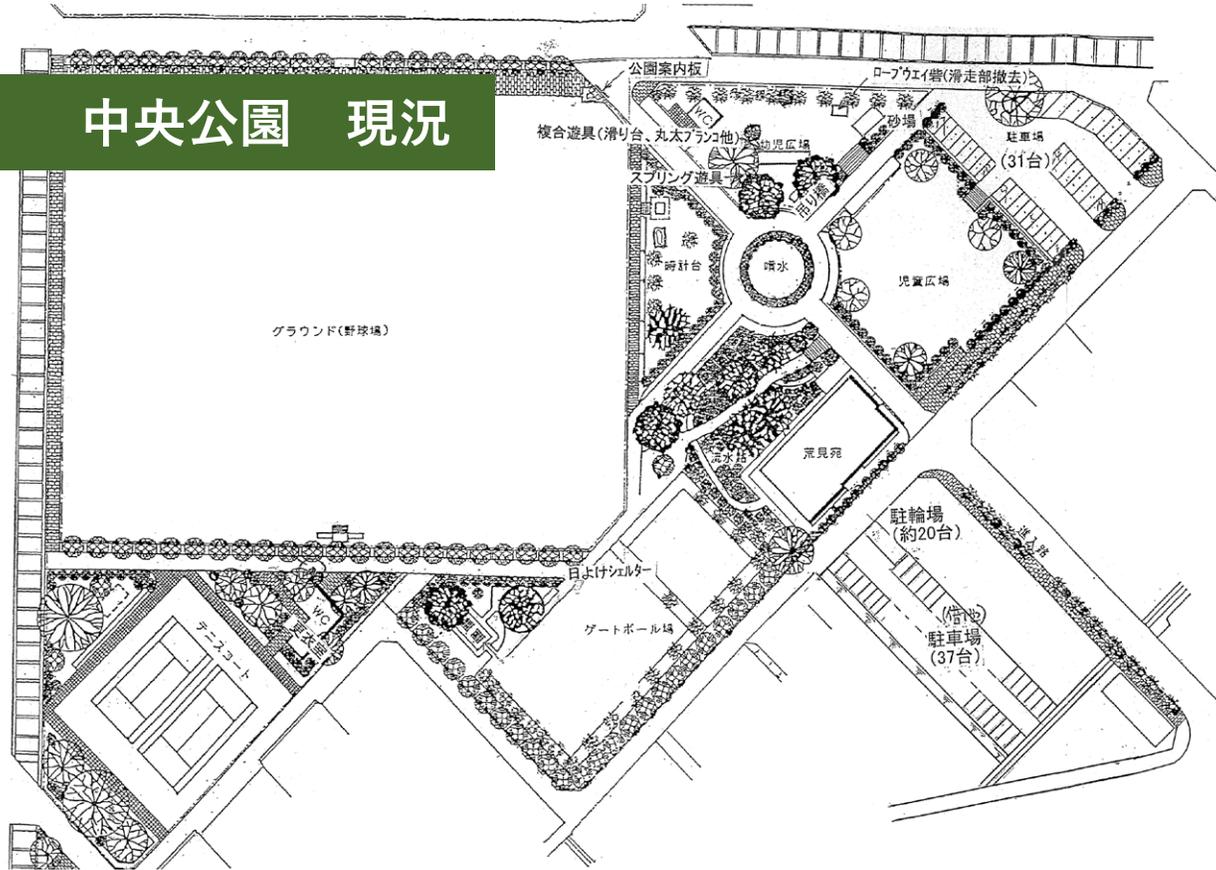
区分	台数 (上下線合計)
12H(昼間)	27,009 台
24H	39,590 台

(H27年度全国道路・街路交通情勢調査)
観測地点地名 久御山町森

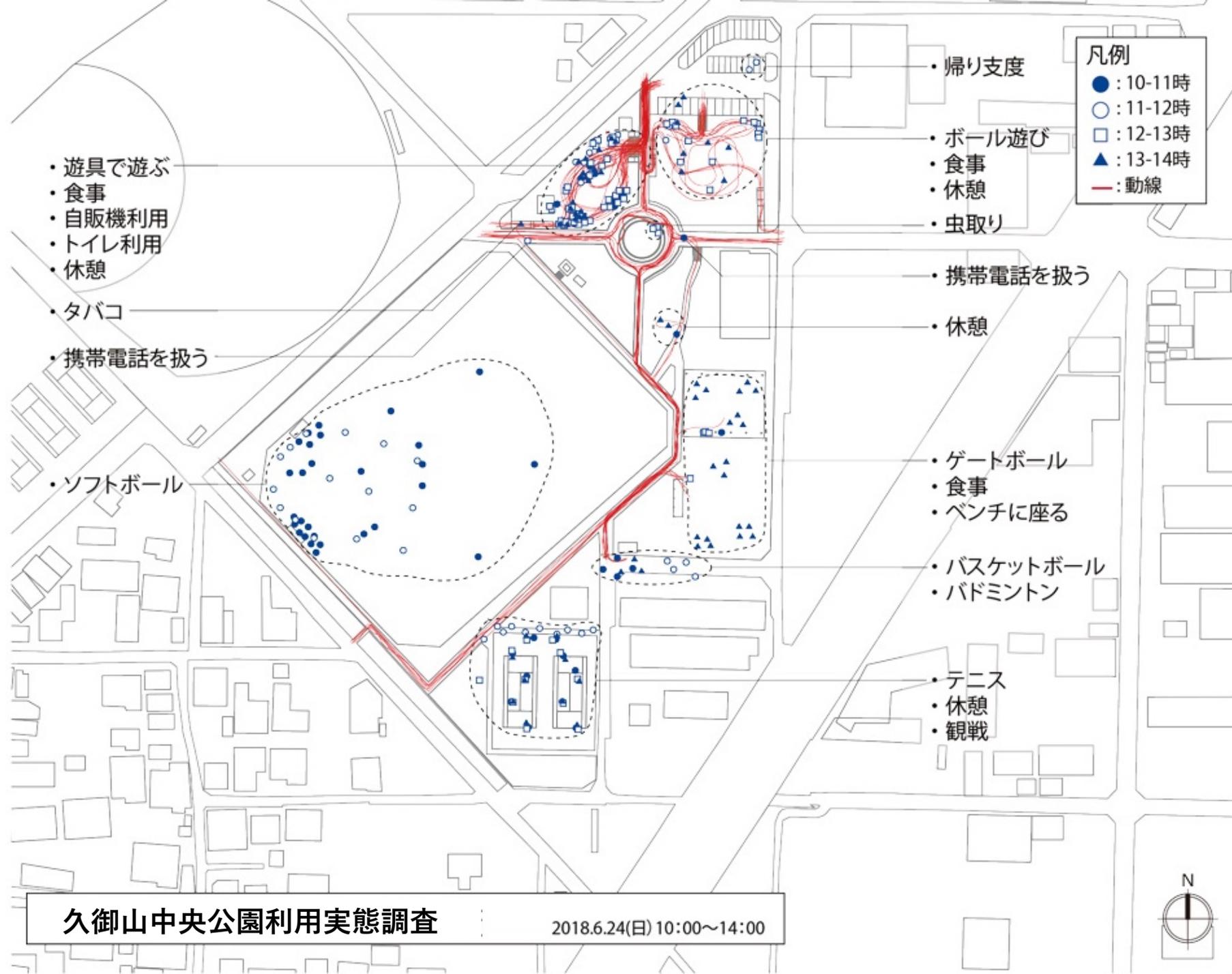
3) 運営上の課題と要検討項目

- 都市公園法の改正により公募設置管理制度 (Park-PFI)が創設され、民間活力を活用した都市公園の整備・管理の可能性が広がっている。久御山町においても、民間事業者との連携による都市公園の魅力によるストック効果の向上や、民間資金の活用による公園管理者の財政負担の軽減の方策を検討することが望まれる。
- 先行事例からは、都市公園における飲食店の設置の効果として、賑わいの創出、憩いの場の創出、利用者層の拡大、利便性の向上、周辺地域の活性化、交流の場の創出などの効果が報告されている。また、管理運営者の選定においては、コンセプトとの合致、施設の外観やデザイン、事業者の実績やサービス提供能力などが重視されている。
- 都市公園における民間事業者との連携の先行事例は、採算性が見込める大規模施設の運営や、大都市のきわめて集客力のある場所に立地する飲食・物販等の収益施設の運営が中心である。久御山中央公園は、先行事例に対して、規模の面でも集客ポテンシャルの面でも条件が厳しく、収益事業スキームに工夫が求められる。また、事業性の確保のため、駐車場や施設整備のための公園用地の拡張や、荒見苑との一体的活用などの周辺の施設との連携についても検討する必要がある。

中央公園 現況



公園利用状況



クロスピア久御山



1) 施設概要

目的：町内の農産工業の産業情報、観光情報の発信拠点

乗合バス路線が集まるターミナル（まちの駅）としての集客・交流の促進拠点

- 1階 待合コーナー、販売コーナー、展示ブース、特産品加工室 2室（パンなど）
- 2階 有料：交流室 2室、ものづくりサロン（専門使用）、展示/産業情報ブース
- 無料駐車場：普通車23台

2) 運営状況

- 平成22年4月に開設。平成23年3月に運営協議会が設置され、運営協議会ならびに専門部会により運営されている。専門部会は、現在ではまち案内・特産品販売部会と企業部会に統合されている。
- 入館者（1日当たり）は、平日約220人、休日約310人である。
2階の利用者は、平日・土日平均 10人である。
クロスピア市は現在、年4回開催しており、テーマを決めたいうで舞台やライブステージを行っている。また、野菜や和洋菓子等販売の出店もある。
- 販売コーナーは久御山町農産物直売所によって運営されている。年間の売上合計は約1,300万円であり、事業・サービスの競争力に課題がある。クロスピアとしての収入は、施設使用料とレンタサイクル利用料等であり、大きな収入源にはなっていない。
- 農産工業の産業情報、観光情報の発信の役割は、常設の展示ブースが担っている。展示による情報発信、交流促進の方法には課題が残る。